

# 集落営農法人等へのたまねぎを 主体とした園芸作物の推進



## 課題の背景

担い手の高齢化等による生産力の低下

不作付地の増加

農業産出額の減少

集落営農組織の設立

経営安定に向けた取組み必要

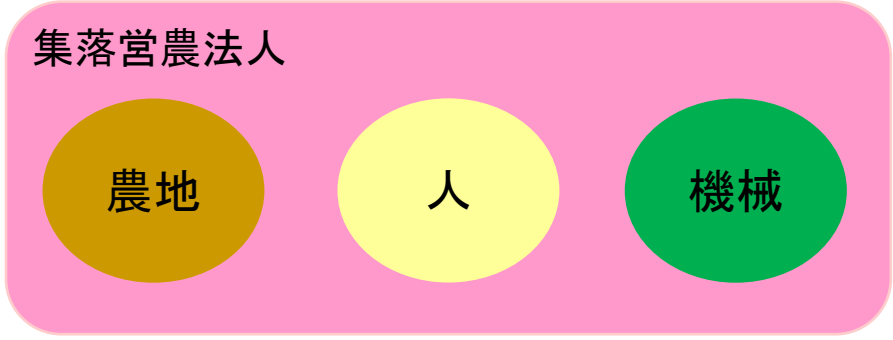
長門大津地区農業法人  
連絡協議会設立

## ● 長門地域食と緑と水の実行計画

(H21年長門地域農林業・農山村振興協議会)

需要に応える生産拡大

- ①需要と結びつく米・麦・大豆の産地づくり
- ②力強い園芸産地の育成



ものづくりの担い手としての期待が高まる

課題の設定

法人協を核とした産地育成

- 新たな結びつき米の生産拡大
- 大豆の生産安定と品質向上
- 小麦産地の定着と拡大
- **園芸作物の生産拡大と販売強化**

法人協

法人間の連携

生産  
・安定  
・効率  
・省力

・鳥獣被害防止対策  
・6次産業化

## 課題の設定

### たまねぎ栽培の作付重点推進

- ・ 県産タマネギの供給量増の期待あり
- ・ 機械化体系により省力化が図れる
- ・ 栽培は比較的容易
- ・ 冬作物で、法人の労力活用が可能

### 普及活動の内容

#### 1 関係機関での推進体制の整備

○JA、市との推進に向けた合意と役割分担

- ・JAとの推進合意 → 担当者を設置し協議スタート
  - JA(法人協事務局担当):会議の調整、事業執行
  - (営農販売担当):機械利用や出荷の調整
- 市:単県事業等の事業推進
- 農林:栽培指導、取組の全般支援

○推進に向けた課題整理と対策の検討

- ・機械の利用、導入
- ・貯蔵場所の確保
- ・労力確保 等

# 長門大津地区農業法人連絡協議会

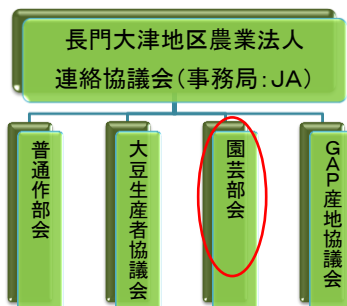
設立:平成20年8月27日

設立の目的

- ・連携強化による個々の経営安定化
- ・ネットワーク化による効率的で永続的な営農体制の整備

構成組織:14法人(H25.1.24現在)

組織体制



## 普及活動の内容

### ○作付推進

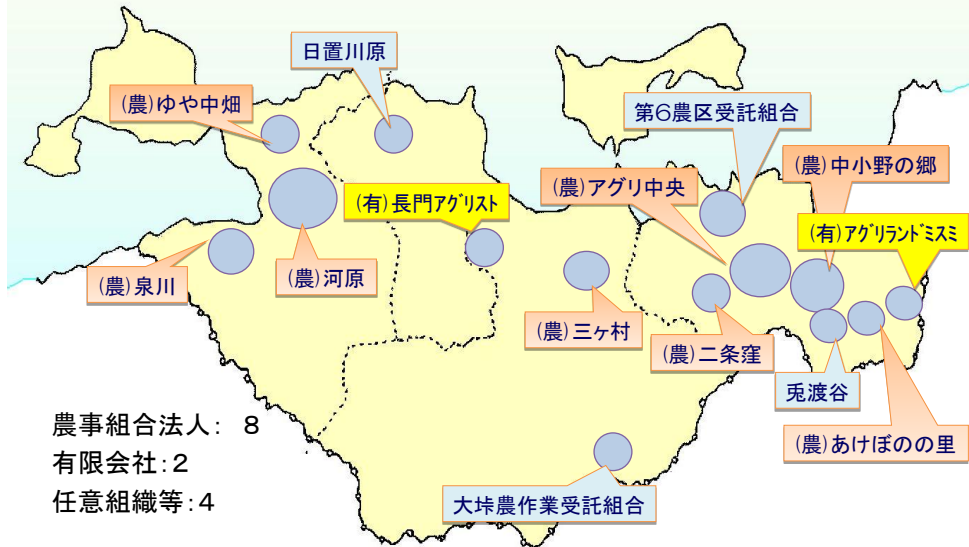
H22年以降、集落営農法人を中心に作付推進を実施  
推進にあたっては提案資料(試算、支援内容等明記)  
を元に実施

法人協総会等各種会議での推進  
各法人理事会等での推進



H23年産 13組織 3.5haで取組開始

## 長門管内での作付状況(H25産)



### 普及活動の内容

#### 2 法人協園芸部会による生産安定に向けた取組



反映

H23:6回 H24:6回

園芸部会を対象に効率的な指導  
 +個別指導

## 普及活動の内容

### 3 生産体制整備

#### ○共同利用機械の導入(H23)と利用調整



収穫機



ピッカー



選別機一式

生育状況等を元に  
利用調整を実施



機械利用規程、  
出荷計画の策定



各組織で利用

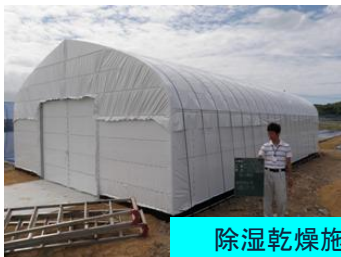
## 普及活動の内容

### 3 生産体制整備

#### ○移植機の導入検討と除湿乾燥機の導入(H24)



半自動移植機の実演会開催



除湿乾燥施設の導入(1法人)

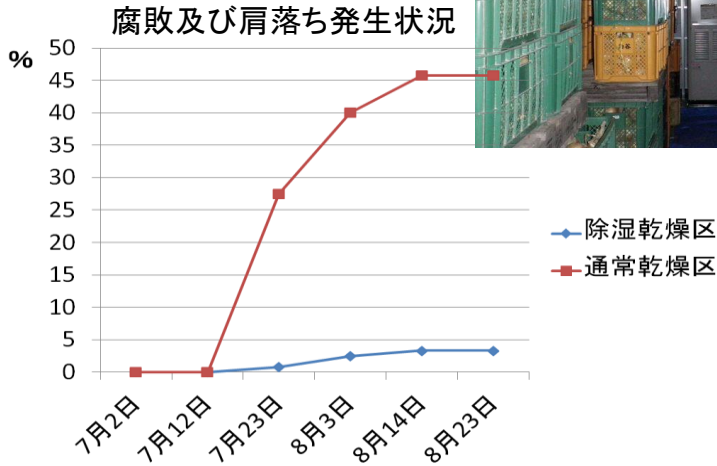




## 普及活動の内容

### 除湿乾燥機の効果確認

・結果は園芸部会で報告し、今後は産地全体での体制を検討



## 普及活動の内容

### ○乾燥貯蔵施設の確保支援

既存施設の活用や改修、新規整備等の取組を支援



## 普及活動の内容

### ○排水対策の推進

- ・弾丸暗渠、額縁明渠の実演会の開催(H24)



弾丸暗渠の実演会

サブソイラの導入へ



明渠の整備(タネキほ場)



土壌調査結果説明

排水対策意識  
の向上

## 普及活動の内容

### 4 経営改善に向けた取組

#### ○経費削減に向けた取組

苗購入から自家育苗取組への提案

→H24産から9組織が新規に育苗を開始

H23種苗費(購入)  
66千円/10a

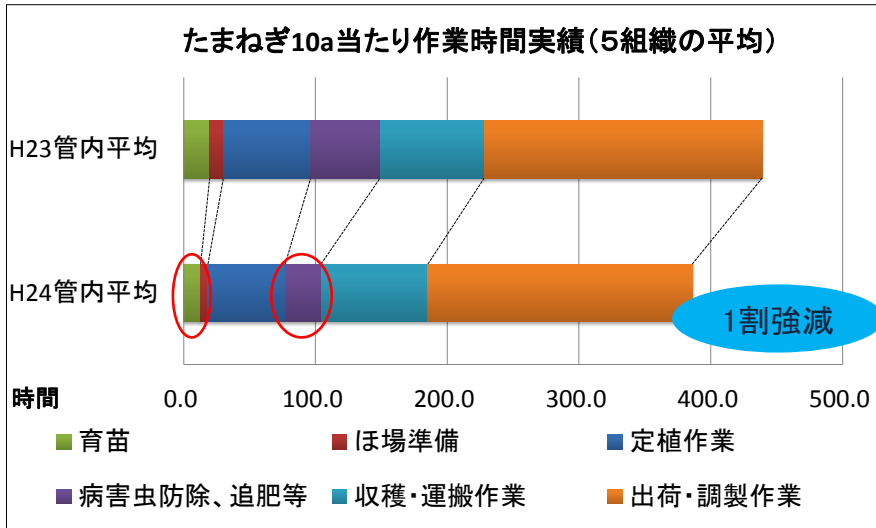
H24種苗費(自家)  
16千円/10a



## 普及活動の内容

### ○経費削減に向けた取組

#### 労働時間調査による実態把握と改善提案



## 普及活動の内容

### 10a当たり収支の調査

価格安定



制度産地認定  
= 価格補償制度

年産		H23	H24
面積 a		20	40
単収 t		5.6	3.9
価格 円/kg		86	101
粗収益(A)		656	570
経営費(B)		780	523
内数	労働費(①)	408 (512hr)	272 (340hr)
	支払地代(②)	5	0
利 潤 (A-B)		-124	47
構成員還元額 (①+②)		413	272

## 普及活動の内容

### ○各種支援策による支援

産地資金、単県ソフト事業を活用し、重点的な支援を実施

#### 産地資金(円/10a)

項目	単価
県重点推進野菜助成	20,000
共販推進加算	15,000
法人等育成加算	15,000
規模拡大加算	32,000
機械化体系促進加算	15,000
循環型農業推進加算	15,000
計	112,000 (最大で)

#### 単県ソフト事業

項目	
面積拡大助成	かかる経費の1/2以内の助成等
畑地栽培実証	
自家育苗、共同育苗実証	
苗法人間連携助成	
共同機械利用料助成	

## 普及活動の内容

### 5 法人間連携等の推進

○機械の賃借利用や作業受委託を実施

・畝立て作業



○共有機械(乗用管理機)の利用作業の増加

・薬剤散布

## 普及活動の内容

### ○苗の補完体制の構築

H23産 他産地から購入



自家育苗及び苗の調整について提案

H24産 9組織が自家育苗に新規取組  
苗供給: 2組織・日置農高 ⇔ 購入: 5組織  
計8万本

H25産 苗供給  
3組織・日置農高 ⇔ 購入 7組織  
計21万本



## 普及活動の内容

### ○労力補完の検討

#### 選果指導員の設置に向けて

調製時の労力確保と出荷規格を徹底するため、選果指導員の設置を模索

→JAでの雇用手続き等が間に合わず、次年度再検討

#### 新規就農者・研修生との連携

組織へ提案、仲介を行い、収穫や出荷調製作業時に手伝いを実施

新規就農者等交流会でも法人の意向を説明

助かるな～  
若い力の協力

4法人



新規  
就農  
等5人

助かるな～  
地域とのパイプ  
農業経験  
賃金確保 ...

## 普及活動の内容

### 6 販売先の確保・需要先との連携

- ・出荷計画表を作成し、出荷情報を提供
- ・地元への供給

H23.12月、H24.4、6月 長門市場・地元販売協力店  
との現地意見交換会を開催



H24 Aコープ 取引開始 販促実施



## 普及活動の成果

### ○共販産地の育成

- ・2組織0.6haのスタートから認定産地へステップアップ。
- ・平均出荷量は3t/10a程度で計画出荷により市場評価も高まっている。

	H22年	H23年	H24年	H25年	目標 (H25)
組織数	2	13	13	14	—
面積 ha	0.6	3.50	4.15	3.77 (4.1)	3.5
出荷量 t	21	105	(確認中)	—	140

## 普及活動の成果

### ○取組組織の意識の変化

H23産

多大な労力がかかり、収支はどこも赤字

H24産

一部組織では収支が黒字に

法人理事の声から

「多少赤字でも地域にお金が落とせれば良い」

「せっかくこれだけ女性が作業に出てくれるので、何か新しい品目も取り組みたい」

産地としての定着へ

## 普及活動の成果

### ○他の園芸作物への取組拡大

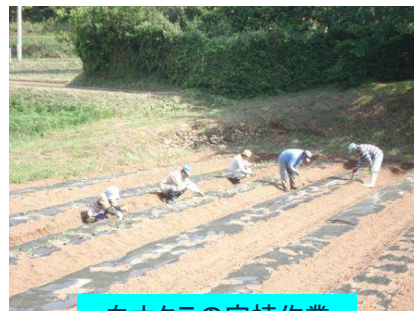
- ・学校給食向け取組  
→じゃがいも、にんじん、キャベツ
- ・女性労力活用  
→白オクラ、はなっこりー



じゃがいも機械化実証



にんじんの収穫体験



白オクラの定植作業

## 今後の取組方向

### 1 たまねぎの定着支援

- ・収益性の向上(単収向上、労働時間の削減)
- ・排水対策の徹底

### 2 園芸作物の取組拡大

- ・「これ以上の取組は限界」といった声も…
- 各組織の実態把握とそれに応じた取組提案
- ・労力補完体制の構築

### 3 長門地域での園芸作物推進方策の検討

- ・地域としての推進品目の検討